



象頭山

象頭山はお釈迦様が拝火教徒と神通力くらべを行い勝利したところ
(インド・ビハール州ガヤ)



台湾、ブータン等多くの国々の寺院が、インドビハール州ブダガヤに建立されました。印度山日本寺は 1968 年、全日本仏教徒の仏恩報謝、仏教興隆の願いをこめて各仏教宗派を超えて発足された(財団)国際仏教興隆協会により開基され、1970 年に国際仏教会館、73 年には本堂、鐘楼、77 年には無料保育施設、その後無料医療施設などが完成し、今日も多くの子供たちが訪問者に参加されています。

さて、超宗派で建立された日本寺であります。外国人、特に欧米人がイメージするところの日本仏教は「禅」であります。今日も日本寺には多様な国籍の方々が訪れては坐禅に取り組んでいます。しかし、近年は禅宗系の駐在僧がおらず、せっかくの坐禅希望者も自主的に坐るという状態が続いていました。そこで以前より国際仏教興隆協会現地法人の木工原理事に坐禅会実施の希望を頂いていたのですが、今般ようやく機が熟したのであります。

今回は兵庫県鶏足寺(臨済宗妙心寺派)住職平出全价師の指導の下で坐禅会が実施されました。初日は 5 名の参加と寂しかった坐禅会も平出師の懇切丁寧な指導の成果か、日々参加者が増加し、多い日には 20 名以上の参加者を得、初の試み

お釈迦様のお悟りの聖地 ブダガヤで坐禅会



としては上々の成果を得たものと自負しております。また今回の研修会に際しては現在の日本寺駐在僧である根来穆道師、高木香悦師の多大なる尽力を頂戴いたしました。小衲は両師が宗旨違いの坐禅に真摯に取り組んでおられる姿に、非常に感銘を受けました。改めて心より感謝申し上げます。



インド日本寺の坐禅会

さて実際の坐禅ですが、参加者の国籍母国語が多種多様で改めてインド、ブタガヤの国際性を感じました。何しろインド、カナダ、スペイン、スロベニア、フランス、そして日本人バックパッカーと坐禅のワールドカップ状態なのですから、指導者の平出師は大変であったと思います。平出師は英語が堪能でヨーロッパ系の参加者は英語を理解できる方々ばかりでしたので助かったのですが、日本人のバックパッカー達の中から「何言ってるのかあ解んない！」等という声があり、若者



成道会

境内がろうそくの優しい光に
つまれました。

特有の発音をインドで聴く不思議さを感じると同時に、さほど外国語が得意でなくても一人旅をしている若い女性のバックパッカーがいるのだという事実には驚かされました。日本人旅行者のブタガヤ滞在は1〜2日程度で、日替わりで、次々に別の日本の若者が参加するという感じでしたが、坐禅会後の茶話会で日本茶に感激する国籍不明の服をまとった彼らを見ると、生まれ育った文化というもの大きさを実感しました。日本であれば寺を参拝することも少ないであろう彼らに、少しでも坐禅体験をさせてあげられたことも、この坐禅会の大きな成果であると思います。

上記の通り初めてのブタガヤ坐禅会でありましたが、国際仏教興隆協会様、根来師、高木師、平出師の尽力により、有意義なものとする事が出来ました。平成19年度には今回の経験を活かし、更に良いプログラムにしたいと思っております。

成也記

(国際臨済禅ニューレターより)



第2回涅槃会コンサート

山野さと子さんに出演して頂き涅槃会コンサートが開催されました。参加者から協力して頂いた浄財は国際仏教交流協会を通じインドの子供たちの為に使われます。



静岡寶泰寺様青壮年部との交流会
(当山にて)

- ◎ 除夜法要の奉仕活動。
- ◎ 本吉町 淨勝寺様青年部との交流会を実施。
- ◎ 静岡市 寶泰寺様青壮年部との交流会を実施。
- ◎ 山野さと子さんを迎えて涅槃会コンサートを開催。



除夜法要

今年も青年部の奉仕でおでんや甘酒がふるまわれました。
 感謝—おでん提供 水野水産様

青年部活動報告



本吉淨勝寺様青年部との交流会
(淨勝寺様にて)

◆みんなのお墓—釈子塔◆

- ・ 仏教徒であれば誰でも納骨できる。
 (他寺で葬儀をされた方も納骨できます)
 墓地を建てる必要がない。墓地建立、墓地取得に比べて費用がかからない。
- ・ 歴代住職の墓地も兼ねているので、寺が存在する限り永代供養される
- ・ 配偶者が無い場合には維持費も不要。
 (配偶者が居られる場合には配偶者存命期間のみ維持費年間 5,000 円が必要です。)

墓地情報

昨年会報で紹介いたしました境内墓地は、墓地使用权取得希望者が多数であったため残すところ僅かとなってしまいました。これで当分の間当山の新規の墓地を紹介するのは難しいものと思っておりましたが、昨年運良く当山の東側の隣接地を買取出来た為、懸案であった尾島町側の雑木の墓地整備が可能となりました。同地は外見上こそ雑木林ではありますが、登記は墓地用地とされており、整地されればすぐにでも墓地としてお分けすることが可能となります。第一期の造成の完了はお盆位となります。少なくとも 100 基以上の墓地が出来る予定ですので、是非ご親族や知人の方々にご紹介していただければ幸甚と存じます。



昨年遷化された大乗寺源井進道老師の分骨塔に参拝

国際臨済禪交流協会

タイ国ワット妙心二十五周年

去る二月五日より五日間、タイ・アランニャプラテート州バライ村ワット妙心にお参りしてきました。ワット妙心には昨年遷化された寶林室澤井進道老師の分骨塔に参拝。バンコクで闘病中の前タイ王室仏教会のブニョーン・ボンバンジー博士、更には現在世界仏教徒連盟の会長を務めるアヌートボンバンジー氏と再会し、旧交を温めました。詳細な旅行記が竹前氏より寄せられておりますのでここに紹介致します。

やはり懐かしい国、タイ

竹前直子

平成 19 年 2 月 4 日

3 回目のタイ旅行は、臨済宗のお坊さんたちと「ワット妙心 25 周年記念法要」のボランティア旅行に参加したので。

お坊さんたちは昨年はミャンマーにでかけて、オカラッパの日本人墓地での法要や小学校建設などをなさいましたから、今回も日本人墓地へでかけるものと思いきや、墓石に日本の水をかけてあげようかと密かに準備をしていましたが、今回はちょっと違いました。

思いがけず、カンボジア内戦のことが目の前に現れたのです。

1970 年代のボル・ポト派によるカンボジア国民への虐殺については、遠い過去のこととして安易に忘れることはできません。

同じアジアに住みながら、ニュースを聞いたり新聞を読む程度だった私ですが、ボル・ポト派への怒りは折りにふれてよみがえります。



バライ村の子供達の歓迎

最初のタイ旅行では、浅野ご夫妻のお薦めに従ってカンボジアまで足を伸ばしてアンコールワット遺跡を見物しました。通訳の若いガイドさんのおじさんもボル・ポト派に殺されたこと聞き、「まあ、つい最近のことじゃないの」と夫と一緒に憤慨したものでした。

アンコールワットの近くのジャングルは地雷の危険がありますから、散歩などは当然控えます。近くの小学校の教室をのぞきますと、むき出しの壁には絵もなく、日本の戦後まもなく同様の長机と長イスだけでしたが、教室いっぱいにはいるやせた貧弱な子どもたちが、いつせいに起立して私を迎えてくれました。

私たちに向けられた子どもたちのまっすぐな目は、この国の未来の確かさを物語っているようでした。

ボル・ポト派の虐殺から逃れようとしたカンボジアの人々は、国境を越えてタイへ流れこみ、タイの村々もまた被害を受けました。やがて、世界的な支援の手はカンボジアに向けられました。

援の手はカンボジアに向けられました。タイへの支援を実施したのが臨済宗の方々でした。村人の希望により、お寺を作ったのです。

今回の旅行は、そのお寺



バライ村の小学校にパソコンが寄進された

創建 25 周年を記念しての法要の旅です。

「どんな援助がほしいか聞いたんですよ、それからお寺が欲しいって言われてねえ」と、東園寺の若い千坂住職は温かい眼差しでこう話しはじめました。

「食べ物とか、お金が欲しいのが普通なのに、お寺が欲しいって言うんですよ、そのお寺は、いつの間にか村の人たちから「ワット妙心」と呼ばれるようになったんです」

「ワット妙心」

知ったかぶりで少し説明しますと、「ワット」とは、タイ語でお寺のこと。つまり、「妙心寺」となります。臨済宗の大本山は京都の妙心寺ですから、お寺を建ててもらった村人の感謝の気持ちがよく表れているのではないのでしょうか。

バンコクから東へ東へと続くアランニャプラテートへの道は、宮城県の大崎平野を突っ切る東北自動車道からの眺めにも似て、広々とした平野が延々と続きます。豊かな穀倉地帯の大崎平野と違って、田んぼはなく、荒地の間に畑と植林地がどこまでも続きます。この荒地は、どうしたことでしょうか？

水牛が田を掘り起こし、村人がすげがさをかぶって農作業している光景を思い出していましたが、現実とは違いました。畑には、こんなにやくだのようなものが栽培されていますが、こんなにやくだではなく「タロイモ」とのこと。タロイモは、荒地での栽培に適しているそうですから、この土地に合っているのでしょうか。逆に、他の作物が実らないようです。

地図で見ると広々とした亜熱帯の平野ですが、残念ながら土そのものが良くないのだそうです。

「ふん、このあたりの土地はよろしくありませんね？」



仏教会の坐禅センターで
上座部仏教系の坐禅を体験

「中国の下の方からこのあたりにまで、ずーっとよろしくないんですよ」

私の素朴な疑問に、安国寺の梅津住職は東南アジアの地図を出して「粘土や赤土などの続くよろしくない土地」を指して指し示します。

「今はすっかり変わったけど、最初の頃は治安が悪くて、私たちの車の前後を銃を持った軍隊が守ってくれたんですよ、30年前のことです」とのこと。

現在は、日本の道路と比べても全く遜色のないほど立派に舗装されたその道は、はるかカンボジア国境まで続き、タイの車の8割は日本車とのことで、たくさんのお新車が溢れていました。

バンコクから高速道路を飛ばしたバスが国境の町アランヤプラテートの「ワット妙心」に到着すると、もう村人はお寺のまわりに集まっています。地元で採れたスイカを運んでくる人もいます。

「サワディ カー」（こんにちはの女性形）

顔の前で両手を合わせて頭を下げ、村人と私たちは挨拶を交わしました。テントの中では小学生の男児が民族楽器の大きな太鼓をボンボンとたたいて、しきりに練習を始めています。

8人の日本人僧侶による説経が始まりました。宗教心の薄い私ですが正座して数珠を手にし、ところどころ覚えていた「般若心経」を口ずさんでおりましたが、ふと気がつく、まわりのタイ人は足をくずしています。横座りです。

説経のときは横座りが正式なのだそう。月曜日はブミボン国王の誕生日を祝って黄色のシャツを着る人が多いのです。

行事の最後は、お寺での昼食会です。村の女性たちがたくさんのお食事を準備していました。朝からがんばって料理していたのでしよう。

野菜・卵・豚の角煮おでんのようなもの。いろいろな甘い餅菓子。タイ米のご飯もどつきり。

タイの僧侶は二段高い席で召し上がっていましたが、日本人は本堂の中央にテーブルとイスが準備されています。一般の村人は、私たちが会食している間中、テントの中でじっと待っています。

（私たちがただこんなにご馳走をいただいで、何だか申し訳ないわねえ、村の人たちの食事はどうなっているのかしら？）と思いましたが、ご安心ください。ご馳走は、全員にたっぷりふるまわれました。ああ、良かった。

食事が終わったタイの僧侶が帰られると、やっと村人の昼食の時間となりました。私たちとほとんど同じ昼食ですが、大量の麺が用意され、うらやましいことです。

麺大好き人間の私としてはぜひ味わいたかったのですが、次回の楽しみとしましょう。

会食の場を盛り上げたのは、子ども達からの歓迎舞踊です。女兒の民族舞踊は、さすがにタイらしく指先が驚くほどしなやかで愛らしいものでした。

担任の先生がお化粧をしてくれらしく、口元が赤々としています。

朝から練習していた男児たちの伴奏も堂々として、日本からのお客をもてなそうとしている熱意が伝わってきます。早朝4時半のモーニングコールの意味がやつとわかりました。

タイの僧侶は午後からは食事をしないので、昼食に間に合うように私たちの到着は決して遅れてはいけません。仏教国タイでは若いときに仏門に入ることを尊敬されますし、国内のいたる所に王室の旗と国旗がはためいています。

タイの国旗は、赤が国民、白が仏教、青が王様（タイ人の心）を表しているそうです。お寺から近い学校の校庭にはサッカーゴールもあ



チェンマイで朝のお勤めに参加

り、子どもたちがスポーツを楽しめることは喜ばしいことです。

今回のツアー料金が1万円が支援金となり、2台目となるバスコンが小学校へプレゼントされました。バスを見送って手を振っている子どもたちの笑顔がまぶしいです。

暑い国タイも2月は乾季にあたります。チェンマイのお寺を訪問して坐禅を組みますと、早朝のさわやかな冷気が本堂に満ちてきます。しだいに木々の形が明瞭になり、椰子の木が、「ああ、ここは外国だった」ということを感じさせてくれます。

今回の旅は、激しい落ち込みを経た後の不思議なものでした。

半年前の姉の死により、両親や夫の死よりも強い喪失感と絶え間ない挫折感に打ちのめされるばかりでした。内戦に荒らされたアジアの人たちが、「お寺がほしい」と希望した気持ちがかかるような、そんな気がする旅でした。

旅の最終日にチャオプラヤ川を渡り、ふと、夫と来た最初のタイ旅行を思い出しました。この川の上流あたりのホテルに泊ったわけ。

川を渡る小舟にも、オレンジ色の僧衣をまとった若いお坊さんたちが乗り合わせ、何かしみじみとした風情がありました。

私の心の奥深くでせめぎあっている内戦も、やがて落ち着くような気がするタイの風を感じました。タイの皆さんや、臨済宗の皆さんに感謝するばかりです。

「コップン カー」（ありがとう）

幼稚園だより



大運動会



大運動会



成道会お遊戯会



芋掘り遠足



もちつき



成道会お遊戯会

たのしいおもいでいっぱいのおねんかん



塩釜中央幼稚園
塩釜第二中央幼稚園





Mrカラスコ



お店やさんごっこ



節分豆まき



節分豆まき



お店やさんごっこ



お茶のお稽古



涅槃会



もちつき

坐禅会

どなたでも気軽にご参加下さい。
前回の服装ですと坐禅の呼吸法に支障を
来す場合がございますので茶色服装で参
加して下さい。

●毎週日曜日 夜7時 於 東園寺本堂
所要時間 50分 坐禅 20分×2回 体操 10分程度

THE ZEN CLUB 会員募集

●ウエイトトレーニング 運動不足解消 各種
スポーツの補強トレーニング

利府町加瀬字野中沢90-1 TEL.356-2933

※東園寺横信後 中央幼稚園 第二中央幼稚園保護者割引有り

THE ZEN CLUB ザ・ゼン・クラブで心と体の健康を!! 開館時間/月~土午後4時~9時

一日体験トレーニング
チケット

無料

住所

氏名

坐禅/シェイプアップ/減量/健康増進/運動不足解消/各種スポーツ補強トレ
ニング/ボディビル/パワーリフティング/メンタルトレーニング

●トレーニングウェア、シューズ、タオル等は各自ご持参下さい。



当センター
利府町加瀬字野中沢90-1
TEL.022(365)2933

寺庫紹介

南無薬師瑠璃光如来

松島瑞巖寺中興開山雲居禪師による薬師如来の名号。名号とは仏様の名前を記した書をいう。当山所蔵の雲居禪師の墨蹟には、この薬師如来の名号の他「南無観世音菩薩」「南無西方弥陀如来」の名号、更には禅宗の初祖と仰がれる「初祖菩提達磨」という祖号がある。

薬師如来は東方瑠璃光世界にあって、衆生の病苦を除き悟りへと導くことを本願としている如来で、本邦でも飛鳥時代より造像が盛んな、現世を尊重し現世の幸福を願う仏様で

ある。(当山の不味堂の本尊は薬師如来である。)

さてこの墨蹟は縦 59 センチ横 16 センチの小振りなもので、一文字目の南の部分に文字の欠落がある。昭和 60 年に発刊された雲居禪師の遺墨集に薬師如来だけを記した名号の例は無く、雲居禪師自身の信仰というよりは病氣平癒祈願の為に請われて書かれたものではないかと想像される。雲居禪師が開創あるいは復興に関わった寺は 170 以上にも上り、妙心寺派の中でも特筆すべきものであるが、その事由は伊達家の物質的な援助もさることながら、この墨蹟に見られるような目前に苦しむ衆生に手を差し伸べた雲居禪師の大慈大悲のはたらきに帰するものであるといえよう。



雲居禪師
薬師如来名号

花祭りの夕べ

本年の花祭りは 4 月 1 日 (日) 午後 5 時より、妙心寺派布教師平出全价師を講師に向かえ開催されます。今年も昨年同様、会場は東園寺本堂です。多くの方々の参加をお待ちしています。

会費 (食事付) 大人 3,000 円 高校生以下 1,000 円



昨年の花祭りの夕

東園寺ホームページ
<http://www.toenji.com>

毎月 10 日前後に更新しています。

東園寺中興開山曹源祖水禪師の行状記が読める他、所蔵墨蹟の紹介 (寺庫紹介)、住職の法話のページ (ほら貝) など気軽な内容です是非ご覧ください。

宗教法人 東園寺	〒985-0026	塩釜市旭町 4-1	022(362)0777	寺務所
学校法人 東園寺学園	〒985-0012	塩釜市芦畔町 13-51	022(362)8651	中央幼稚園
			022(365)5616	第二中央幼稚園
			022(364)4444	FAX
代表役員 千坂成也	理事長 千坂秀也	花園会・会長 阿部久壽	022(356)2933	ザ・ゼンクラブ